
第 2 6 7 号

2012年 3月 28日

日 本 気 象 学 会

関 西 支 部 ニ ュ ー ス

- 第5回気象サイエンスカフェ in 関西
報告
- 2011年度 の例会報告
- 関西支部第30期役員選挙の告示
- 会員種別について
- メールアドレス登録のお願い
- 住所変更届のお願い
- (社) 日本気象学会入会案内

〒 540-0008

大阪府中央区大手前4丁目 1-76

大阪合同庁舎第4号館

大阪管区气象台内

日本気象学会関西支部

振替 00980-5-18318

TEL (06) 6949-6322

FAX (06) 6944-2121

ホームページ：

<http://www.msj-kansai.jp/>

E-mail：

info@msj-kansai.jp

(注：メールアドレスはスパム対策のため全角で記しています。メール送信の際は半角で入力してください。)

○ 第5回気象サイエンスカフェ in 関西報告

サイエンスカフェは、科学者などの専門家と一般の市民がお茶を楽しみながら気軽に科学などの話題について語り合うコミュニケーションの場です。

2011年12月17日、大阪心齋橋の英國屋にて第5回気象サイエンスカフェ in 関西を開催しました（日本気象学会関西支部と日本気象予報士会関西支部の共催）。

当日の参加は25名でほぼ満席。

彦根地方気象台 技術課から土井ひかるさんをゲストに招き、

「南極の気象～越冬隊の生活と昭和基地の気象観測」のスライド映像と講話で話題を提供していただきました。

体験者ならではの心情を交えた具体的な日常生活の苦勞や工夫、写真や動画で見る極



講演する土井さんと参加者の皆さん

地の自然の不思議と魅力、皆さん思い思いにイメージを湧かせては質問を投げかけ、拡がる談議を楽しんでおられたようです。

南極観測隊の志願者が多く高倍率の人選となるのに対し、参加経験者のその後は「リピーター志願派」と「もうおなか一杯派？」まで幅広く分かれるというお話がとても印象深く、このような魅力が経験できる一方、覚悟すべき負担の重さを考えさせられました。

充実のあまり1時間半の予定が2時間近くにまで膨らみ、本編が終了して皆さんが御礼の言葉と共に散会していく間にも、なお片付け中の土井さんと熱心に話し込む方が後を絶ちませんでした。お店の御厚意で時間の許す限り引っ張らせていただき、第5回気象サイエンスカフェは好評のうちに幕を下ろしました。

(常任理事 難波 良彰)

○ 2011年度の例会報告

〈第1回〉中国地区

第1回例会を、2011年11月5日(土)に広島市東区民文化センターにて開催しました。当日はあいにくの雨模様のなか、25名の参加がありました。

例会は3つのセッションで構成され、10題の研究発表と特別講演を行いました。第1セッション(座長は田中健路会員(広島工業大学))及び第2セッション(座長は大橋唯太会員(岡山理科大学))



特別講演の様子

では、湿球黒球温度(WBGT)と熱中症の発生状況の関係、降水中の化学物質の周期解析、浮遊粉じんの時系列変化、水稻圃場からの温室効果ガス放出、水稻群落の熱収支と蒸散、水稻群落における水蒸気およびCO₂無次元勾配の季節変化、気象津波をもたらす気象場、等の調査研究及び降水現象の事例解析など多岐にわたるテーマで発表されました。

第3セッションでは、海堀正博氏(広島大学大学院総合科学研究科教授)による特別講演「土砂災害に備えて一鍵を握る雨の情報」が行われ、本年の台風第12号による紀伊半島の降水と土砂災害との関係、昨年7月に広島県庄原市で発生した短時間豪雨に伴う土砂災害の特異性、一昨年山口県で発生した土砂災害と地質との関係等を実例をもとに講演されました。また被災地の住民からの聞き取り調査等をもとに日頃からの危機管理の重要性を訴えられました。

さらに同氏は質問に答えて、雨量計の必要性を日頃から県の危機管理担当へ強く訴え続け、粘り強く折衝し、観測データを県のホームページから準リアルタイムに一元的に取得できるようにした事等を述べられました。

昨年に比べて半分の発表件数であったため、1件あたりの発表時間に余裕を持った時間構成としましたが、座長の的確な進行もありほぼ時間通りに閉会する事ができました。

例会終了後の懇親会では、気象台、大学関係者と例会の研究発表を話題に情報交換を行い楽しく交流することができました。

最後に、特別講演をお引き受け頂いた海堀先生、座長をお引き受け頂いた先生方、発表会場、ならびに懇親会の手配と準備、進行を担当頂いた広島地方気象台の関係者の皆様、例会の運営に御支援、ご協力を頂いた皆様に心よりお礼申し上げます。

(中国地区理事 中園 昭彦)

〈第2回〉四国地区

第2回例会を2011年12月17日(土)、香川大学生涯学習教育研究センターにて開催しました。気象台関係者、大学関係者など、39名の参加がありました。四国各地からにとどまらず、遠くは岡山県津山市からの参加もありました。

永澤義嗣四国地区理事(高松地方気象台)による開会挨拶により始まりました。例会は3つのセッションで構成され、10題の研究発表と特別講演を行いました。第1セッション(座長は村田文絵会員(高知大学))および第2セッション(座長は寺尾徹会員(香川大学))は一般講演です。やまじ風の山脈上と山麓の風の比較に関する研究発表から始まりました。その後、学校教育との連携を活かした気象研究の発表が2題続き、集中豪雨の学校教育向け防災教育教材作成の経過と、地元高校生の協力を得て松山市のヒートアイランド現象を調査した報告がありました。高松地方気象台の会員による梅雨前線と台風による四国瀬戸内側の豪雨事例解析が2件あり、休憩をはさんで、愛媛県在住の日本気象予報士会の会員による松山での梅雨期の大雨事例解析が続き、最後に高知大学の学生、大学院生の会員らによる4件の発表がありました。竜巻の事例解析と、那智勝浦町・新宮市の記録的豪雨の被害調査と総観場の解析、高知県の豪雨をもたらす総観場と、地形とコールドプールによって線状降水帯が形成されるメカニズムに関する発表が続き、活発な討論がなされました。

第3セッションでは、永澤地区理事の座長の下、津口裕茂氏(気象研究所予報研究部第三研究室)による特別講演「“集中豪雨”の統計的な解析、及び2010年10月20日の奄美豪雨—気団変質過程による暖湿気塊の形成—」が行われました。特に、集中豪雨に関する事例解析にとどまるのではなく、多くの事例を対象にした統計的な理解の重要性を強調されました。また、2010年の奄美大島の豪雨事例について、南からの暖湿気塊の供給による豪雨の発生という常識的な地上天気図からの推測が正しくなく、むしろ北東からの気団変質を伴う暖湿気塊の移流が重要であることを示す興味深い結果を紹介されました。



例会会場の香川大学生涯学習教育研究センター

例会終了後の懇親会では、気象台、大学関係者と例会の研究発表を話題に情報交換を行い楽しく交流することができました。例年のように高知大学から多くの学生の参加があり、場を盛り上げてくださいました。

最後に、特別講演をお引き受け頂いた津口先生、座長をお引き受け頂いた先生方、その他例会の運営に御支援、ご協力を頂いた皆様に心よりお礼申し上げます。

(四国地区理事 寺尾 徹)

〈第3回〉近畿地区

今年度の第3回の例会は、昨年度の日本気象学会関西支部例会と海洋気象学会例会に加えて、大阪管区気象台近畿地区気象研究会の合同で、2012年1月26日(木)9時30分から17時50分まで、大阪管区気象台大会議室において開催しました。日本気象学会と海洋気象学会の会員、気象台職員を中心に約70名が参加しました。

今回の例会では、通常の口頭発表22題に加え、初めてポスター発表の時間を設け2題の発表が行われました。

口頭発表のうち、8題が大阪管区気象台近畿地区気象研究会による発表であり、日々気象業務に従事している職員の視点での事例解析や調査について発表がありました。日本気象学会関西支部と海洋気象学会の合同例会のセッション1では、関西支部の石岡常任理事(京都大学)の座長のもと、気象の分野を中心とした7題の講演が行われました。その後のポスターセッションでは、富山湾の海洋特性に関する発表を中心として、口頭発表では得られない活発な議論や意見交換が行われました。セッション2では、海洋気象学会の高谷理事(神戸海洋気象台)の座長のもと、海洋分野を中心とした7題の講演が行われました。今回は異なる3組織合同の会であり、普段とは違った視点からの発表や質疑応答となり、参加者にとって参考となる内容が多かったのではないかと思います。

今年度は発表件数が多く、口頭発表における1題あたりの発表時間や質疑応答に十分な時間を割り当てることが出来ませんでした。一方、ポスター発表では、さまざまな意見交換がなされていたことから、発表題数が多い場合には、ポスター発表の活用も十分な議論を行うための一つの方法として考えられます。

最後に、会場の手配や準備及び例会の運営にご協力いただいた、大阪管区気象台職員、海洋気象学会、日本気象学会関西支部の関係者の皆様方に対し、心よりお礼申し上げます。

(幹事 酒井 亮太)



講演の様子

○ 関西支部第30期役員選挙の告示

日本気象学会関西支部第30期役員選挙の告示

日本気象学会関西支部規約（第9条）及び日本気象学会関西支部役員選挙細則に基づき、次期役員選挙を以下の要領で実施する。

日本気象学会関西支部選挙管理委員会
〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-76 大阪合同庁舎第4号館
大阪管区気象台技術部内（電話06-6949-6322）
（委員）渡部 俊夫、飯田 早苗

(1) 選出する役員数

常任理事 7名、地区理事 6名（近畿・中国・四国 各2名）、会計監査 1名

(2) 立候補の届出

ア. 立候補の資格・・・2012年4月1日現在で関西支部の通常会員である者。

イ. 届出の手続き・・・立候補もしくは候補者を推薦する者は、選挙管理委員会に届出用紙を請求し、必要事項を明らかに記載の上、同委員会に提出すること（郵送可）。

ウ. 届出の期間・・・2012年4月6日（金）から4月18日（水）までに届けること（必着）。

エ. 届出の宛先・・・〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-76

大阪合同庁舎第4号館 大阪管区気象台技術部気付

日本気象学会関西支部選挙管理委員会

オ. 立候補者の資格審査・・・立候補届出期間終了後、速やかに行う。

カ. 立候補者名簿の記載順序・・・立候補者資格審査合格者について、選挙管理委員会が抽選により定める。

キ. 立候補受付状況の公開・・・立候補届出者の氏名は、関西支部事務局および選挙管理委員会に随時照会することができる。

(3) 投票

ア. 投票の実施・・・立候補者がそれぞれの役員の定数を超えた場合に実施する。立候補者がそれぞれの役員の定数内の場合は無投票当選とする。

イ. 有権者資格・・・2012年4月1日現在で関西支部の通常会員である者。

ウ. 選挙公報および投票用紙・・・選挙公報（立候補者名簿等を含む）と投票用紙は、全有権者に郵送する。これが2012年5月9日（水）までに届かない有権者は直ちに選挙管理委員会に申し出ること。

エ. 投票期日・・・2012年5月29日（水）までに選挙管理委員会に持参または郵送すること（郵送の場合は2012年5月29日以前の消印のあるものを有効とする）。

オ. 投票方法・・・無記名文書投票。投票方法の詳細は投票用紙とともに郵送する。

(4) 開票および結果の公表

ア. 開票期日・・・開票は2012年5月29日（火）に大阪管区気象台内にて行う。有権者はこの開票に立ち合うことができる。

イ. 当選者の決定・・・選挙細則第5条の定めによる。

ウ. 結果の公表・・・結果は、当日学会関西支部事務局（大阪管区気象台）に掲示、かつ関西支部ホームページに掲載する。

日本気象学会関西支部役員選挙細則

1. 理事および会計監査（以下、役員）は、会員による選挙で、自薦立候補者と会員2名以上の推薦による立候補者（以下、両者を立候補者とする）の中から選出する。
2. 常任理事および会計監査への立候補者の資格は、近畿地区（滋賀、京都、大阪、奈良、和歌山、兵庫各府県）に在住の会員とする。
3. 地区に属する府県、および各地区から選任する地区理事の定数は次のとおりとする。

近畿地区（滋賀、京都、大阪、奈良、和歌山、兵庫各府県）	2名
中国地区（鳥取、岡山、島根、広島各県）	2名
四国地区（香川、徳島、愛媛、高知各県）	2名
4. 選挙は、無記名連記の文書投票による。連記する数は、役員の定数とする。但し、立候補者が定数内の場合は無投票当選とする。

5. 役員の当選は、常任理事と会計監査にあっては有効得票数の多い順、地区理事にあっては各地区毎に有効得票数の多い順によって定める。ただし、得票数が有権者総数の10分の1に満たない立候補者は、役員となれない。
6. 役員が、該当する地区の外に異動した時は失格とする。
7. 役員が、特別の事情により辞任を申し出た場合は、その任期中においても、常任理事会の議決により、解任することができる。
8. 役員に欠員が生じた場合は、次点者を後任役員とする。次点者がいない場合は、常任理事会の議を経て、支部長は該当する地区の会員から、後任役員を推薦することができる。支部長が推薦した後任役員は、総会で選任されるまでの間、役員に準じて職務を行うことができる。後任役員の任期は、前任者の残り期間とする。
9. 立候補者あるいは推薦者は投票締切日の25日前までに、立候補者名、立候補する役員名を記入して、書面により選挙管理委員会に提出しなければならない。
10. 選挙に際してはその都度選挙管理委員を若干名おく。委員は会員の中から支部長が任命する。
11. 立候補者は、選挙管理委員となることはできない。
12. 選挙管理委員会は、支部規約および本細則に従い、以下の任務を行う。
選挙の告示、役員立候補者の受付と発表、投票の実施、開票と結果の発表
13. 投票を実施する場合、選挙管理委員会は、立候補者名を投票締切日の20日前までに、会員に告示する。
14. 投票は所定の投票用紙と封筒により、選挙管理委員会に郵送、または持参するものとする。郵送の場合は投票締切日の消印のあるものまで有効とする。
15. 選挙の結果は、支部長が選挙後、最初の総会で報告する。

付 則 この改正は1995年6月20日から実施する。
 この改正は1998年6月17日から実施する。

○会員種別について

会員の種別につきましては、2006年度理事会・総会において「支部会員の種別化について、2004年8月から既に本部で実施している形をそのまま準用し、今後通常会員のみ選挙権や議決権をもつこととする。」ことが承認されました。このため、通常会員は総会の議決権及び役員選挙における選挙権と被選挙権があり、特別会員にはありません。特別会員から通常会員に、あるいはその逆への変更はいつでもできますので、希望される方は日本気象学会事務局まで連絡して下さい。

○ メールアドレス登録のお願い

関西支部ニュースは年3回（5月、10月、3月）発行予定で、2006年度から関西支部ホームページに掲載して閲覧していただいています。支部ニュース発行、総会・年会・例会などの開催通知等は支部全会員にE-mailで配信しています。まだ登録されていない会員の方は、会員氏名・番号、E-mailアドレスを関西支部事務局まで、ご登録いただくよう重ねてお願いします（関西支部の連絡先などは最初のページをご覧ください）。

○ 住所変更届のお願い

機関誌「天気」などの発送は学会本部事務局の会員名簿に基づいて行っています。学会事務局では会員の皆様の移動状況を早めに把握するように努めておりますが、把握漏れがあった場合には旧勤務地（旧住所）に発送され、旧勤務地（旧住所）の方に転送等の御迷惑をおかけすることになります。会員の皆様におかれましては、転勤等により勤務地（住所）が変わった場合、変更届を速やかに下記の学会本部事務局宛にご連絡いただきますようお願いいたします。

※学会事務局 〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内

TEL : 03-3212-8341 (内線 2546) FAX : 03-3216-4401

E-mail `met soc-j@aurora.ocn.ne.jp`

(注：メールアドレスはスパム対策のため全角で記しています。メール送信の際には半角で入力して下さい)

住所等の変更届

- | | |
|--------------|------|
| ・会員番号： No. | ・氏名： |
| ・旧勤務地（旧住所）：〒 | |
| ・新勤務地（新住所）：〒 | |

会費の納入など詳しいことは学会事務局にお尋ね下さい。

※学会事務局 〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内

TEL : 03-3212-8341 (内線 2546) FAX : 03-3216-4401

○ (社)日本気象学会入会案内

ホームページ: <http://www.soc.nii.ac.jp/msj/Form/nyukai-j.html>

入会申込書 (個人用)				(社団法人)日本気象学会 FAX: 03-3216-4401				
(太線の枠内だけを記入して下さい)								
個人会員番号		所属支部		受付日	20	年	月	日
				承認日	20	年	月	日
フリガナ				生年月日	19	年	月	日
姓 名				職 業				
性 別	1. 男	2. 女						
郵便物の送付先								
〒	-			(電話)				
現住所 (郵便物の送付先と同じ場合は記入しなくてよい)								
〒	-			(電話)				
勤務先または大学名 (部署、学部等詳細に) (郵便物の送付先と同じ場合は記入しなくてよい)								
〒	-			(電話)				
入会時の「天気」への「住所」の掲載								
1. 郵便物の送付先 2. 現住所 3. 勤務先・大学名 4. 掲載を希望しない								
電子メールアドレス				@				
(学会メーリングリストへの登録は学会HP(http://www.soc.nii.ac.jp/msj/)からお申し込み下さい)								
会 員 種 別 (希望の記号を○で囲む。賛助会員は会費(4万円以上)を記入)								
1. 通常A (一般) 11. 特別A (一般) 共に (会費 6,900円、「天気」を無償配布)								
2. 通常B (一般) 12. 特別B (一般) 共に (会費12,600円、「天気」と「気象集誌」を無償配布)								
3. 通常A (学生) 13. 特別A (学生) 共に (会費 4,200円、「天気」を無償配布)								
4. 通常B (学生) 14. 特別B (学生) 共に (会費 8,100円、「天気」と「気象集誌」を無償配布)								
5. 通常A (高年) 15. 特別A (高年) 共に (会費 4,200円、「天気」を無償配布)								
6. 通常B (高年) 16. 特別B (高年) 共に (会費 8,100円、「天気」と「気象集誌」を無償配布)								
17. 特別C (会費 6,600円、「気象集誌」を無償配布)								
注① 通常会員には総会での議決権、役員に関する選挙権などが有り、特別会員には有りません。								
注② (高年) 会員は本人がこの種別を希望し、前年12月末に65歳以上に達してい個人です。								
31. 賛助会員 (会費 万円、「天気」と「気象集誌」から希望のものを無償配布)								
希望支部 (外国在住者のみ記入。希望なしは関東支部。(国内在住者は自動的に決定されます))								
1. 北海道 2. 東北 3. 関東 4. 中部 5. 関西 6. 九州 7. 沖縄								
機関誌の配布開始希望月 (年途中からの会費は月割りとなります)								
天 気	巻	号から	気象集誌	巻	号から			
定期購読希望 (機関紙以外の刊行物)								
気象研究ノート	1. 希望する (号から)			2. 希望しない				
大会予稿集	1. 希望する (年春から / 秋から) (号から)			2. 希望しない				
来年からの会費納入方法								
1. 郵便口座からの引落し 2. 銀行口座からの引落し 3. 郵便局からの振込み								
注① 1.2.の場合は折り返し必要書類をお送りします。記入のない場合は、3.とします。								
注② 手数料が安く、全国的に利用できる1.がお勧めです。								
通信欄 (その他)								

月 割 り 会 費	号数	単 価	小 計
天気		円	円
気象集誌		円	円
合計			円

(月割り会費の単価)

天気 : 一般 580円、学生・高年 350円。
 気象集誌 : 一般 950円、学生・高年 650円、
 特別C 1,100円。

(2004.12版)